

日本語の文における格助詞「から」の分析  
(統語論と意味論の考察)

アスリ ヌリマナ サリ

0642029

マラナタキリスト教大学

文学部

日本文学料

バンドン

2010

## 序論

様々な国の言語は特徴を持っている。日本語も特徴を持っている。その特徴のひとつは「助詞」である。助詞は「付属語」といって、単独で使われることはない。助詞は文の組み立てにおける働きの違いによって、「格助詞」、「提題助詞」、「取り立て助詞」、「接続助詞」、「終助詞」と分別される（増岡：1992, 49）。

筆者は格助詞「から」に焦点する。格助詞は体言に付いて、述語とその体言との関連を表す助詞（富田：1993, 68）。格助詞「から」は「場所の起点」、「時間の起点」、「人の起点」、「原料」、「変化全状態」、「判断の根拠」、「遠因」（庵：2000, 21）、「様子の範囲の起点」（砂川：1998, 87）、「順序」（新田：1995, 48）、「数量」（浅野：1946, 222）を表す。

この論文の目的は：

1. 格助詞「から」の文法的機能を理解するために
2. 格助詞「から」の構造的意味を理解するために
3. 何の助詞が格助詞「から」に付くことができるかを理解するために。

## 本論

筆者は統語論と意味論の考察を使って、格助詞「から」を分析する。次の例。

1. 場所の起点

例文. 千尋は、窓から、湯婆婆のごてんにしのびこみました。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「場所の起点」を表す。

2. 時間の起点

例文. 高校時代から、日本に留学しようと計画していました。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「時間の起点」を表す。

3. 人の起点

例文. 皆さんから手紙やメールをたのしみにまっています。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「人の起点」を表す。

4. 原料

例文. 水は酸素と水素からできている。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「原料」を表す。

5. 変化全状態

例文. 中国は隋から唐にかわっていたので、このつかいのことを遣唐使とといいます。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「変化前状態」を表す。

6. 判断の根拠

例文. あのクラスでは、試験の成績と出席率から成績が決められる  
そうだよ。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「判断の根拠」を表す。

7. 遠因

例文. たばこの火から火事をおこすことが多い。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「遠因」を表す。

8. 様子の範囲の起点

例文. あの会社はヒラ社員から社長に至るまで全員が制服を着ている。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「様子の範囲の起点」を表す。

9. 順序

例文. 野菜はかたくて火の通りにくいものから炒める。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「順序」を表す。

10. 数量

例文. その種の陶器は今では貴重で、一枚の小皿で1万円からしている。

格助詞「から」はその文の中に状況語として、格助詞「から」の構造的意味はその文の中に「数量」を表す。

#### 11. 格助詞「から」+助詞

例文. 宿場町の後ろの岩山からは15分おきに怪獣が現れる。

格助詞「から」は体言（宿場町の後ろの岩山）に付いて、その格助詞「から」は場所の起点を表す。その文の中に格助詞「から」と提題助詞「は」が一生に用いられる。格助詞「から」は主題に属する。

### 結論

日本語の文における格助詞「から」を分析してみた結果、次の結果を引き出すことができる。

1. 格助詞「から」の文法的機能は日本語の文の中に状況語である。
2. 格助詞「から」の構造的意味は「場所の起点」、「時間の起点」、「人の起点」、「原料」、「変化全状態」、「判断の根拠」、「遠因」、「様子の範囲の起点」、「順序」、「数量」を表す「から」。
3. 色々な助詞（は、の、も、でも、さえ）は格助詞「から」に付くことができる。

## DAFTAR ISI

<b>ABSTRAK</b> .....	i
<b>DAFTAR ISI</b> .....	vi
<b>BAB I PENDAHULUAN</b>	
1.1 Latar Belakang Masalah .....	1
1.2 Rumusan Masalah .....	7
1.3 Tujuan Penelitian.....	8
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian .....	8
1.4.1 Metode Penelitian.....	8
1.4.2 Teknik Kajian.....	9
1.5 Organisasi Penulisan.....	9
<b>BAB II LANDASAN TEORI</b>	
2.1 Sintaksis.....	11
2.2 Semantik .....	15
2.2.1 Makna Leksikal.....	15
2.2.2 Makna Gramatikal.....	16
2.3 <i>Kakujoshi</i> から .....	17
2.4 <i>Kakujoshi</i> から yang Dilekati <i>Joshi</i> lain.....	23

### **BAB III ANALISIS KAKUJOSHI から**

3.1	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Tempat Titik Pangkal Keberangkatan .....	27
3.2	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Waktu Dimulainya Sesuatu .....	30
3.3	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Orang Yang Memberi Informasi atau Benda Fisik .....	34
3.4	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Bahan Baku Pembuat Sesuatu .....	37
3.5	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Keadaan Sebelumnya.....	39
3.6	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Dasar Keputusan .....	40
3.7	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Sebab Yang Jauh.....	44
3.8	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Batas Awal Ruang Lingkup Situasi .....	46
3.9	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Urutan .....	49
3.10	<i>Kakujoshi</i> から Penanda Jumlah Minimal .....	51
3.11	<i>Kakujoshi</i> から yang Dilekati <i>Joshi</i> lain.....	53

<b>BAB IV KESIMPULAN .....</b>	<b>61</b>
--------------------------------	-----------

<b>DAFTAR PUSTAKA .....</b>	<b>64</b>
-----------------------------	-----------

<b>LAMPIRAN DATA I.....</b>	<b>viii</b>
-----------------------------	-------------

<b>LAMPIRAN DATA II .....</b>	<b>xviii</b>
-------------------------------	--------------